Hiroshima Animation Letter vol. 9

広島アニメーションだより

広島のメディア芸術を発信する情報誌

特集1

『この世界の片隅に』製作進行中
広島・呉が待ち望み、日本中から支援されたアニメーション映画
いよいよ今年公開！

「記憶が、動きだす」 息づくようなアニメーション映像から今あらためて見つめ直す、広島・呉。

戦前戦中の広島・呉を舞台にした『この世界の片隅に』（片渕須直監督、原作はこうの史代さんの漫画作品）のアニメーション映画化が現在進行中です。公開は 2016 年秋の予定。市民の中からも作品の完成を応援する動きが活発になってきました。今回は、製作にかける片渕須直監督の意気込みや作品を「支援する会」の活動を中心にレポートします。

クラウドファンディングの大成功が追い風

アニメーション映画の製作には多額の製作費がかかります。本作品も丸山正雄プロデューサーをはじめ多くの関係者が企画段階から製作費確保に尽力されてきました。そうした中、2015 年の春にクラウドファンディングが大成功。これは主旨に賛同した多くの支援者から小口の資金を募るもので、『この世界の片隅に』アニメーション映画化支援では目標金額の 2,000 万円をわずか８日で突破。82 日間の募集期間中に、合計 3,374 人、3,622 万 4,000 円が集まり、非常に大きな反響を呼びました。こうした関心の高さを追い風に本格的な製作委員会も立ち上がり、同年 6 月 3 日、広島市の平和公園レストハウス 3 階にある広島フィルム・コミッション会議室にて、製作開始が正式発表されました。この日は、長らくアニメーション映画化を支援してきた各団体が集まった“「この世界の片隅に」を支援する呉・広島の会”発会の記者発表で、その場での製作開始のしらせは、作品の舞台である広島と呉にとって素晴らしいプレゼントとなりました。

昭和８年頃の中島本町界隈全景（まだＴ字でない相生橋が見える）

支援の活動も活発化

“「この世界の片隅に」を支援する呉・広島の会”を中心に作品を応援する活動も活発になってきました。

2015年7月には、東京・大阪・広島の各地でクラウドファンディング支援者の集い開催。広島では、8才のすずさんが中島本町へおつかいに出かけるエピソード「冬の記憶」の映像も公開され、動くすずさんの愛らしい様子に映画への期待がいっそう高まっていきました。

同年11月23日、広島国際映画祭で4回目となる片渕須直監督ワークショップも開催。前回までロケハン写真や地図などの資料を中心に映画制作過程を披露してきた監督は、「今回は映像を持って来ました！」と、にこやかに話を切り出され、上映された映像には戦前の江波、中島本町が鮮やかに蘇りました。すずさんが江波から呉に嫁入りする最新映像が動き出し、満員の会場に映画完成への期待のどよめき。映画祭会場ロビーの広島フィルム・コミッションブースでは、原画や舞台マップ、作品中の戦中代用食を実際に試食したイベント写真など展示。その場で監督がファンや地元の支援者と歓談する様子も、これまでとはまた違った笑顔にあふれていました。

また、11月終わりから12月初めにかけて、サロンシネマで開催された「食と農の映画祭 2015」に、支援する呉・広島の会は戦中代用食を試食できるコーナーを出展。食べること、食物を作ることに関心を持つ映画ファン、戦争を経験された年配の観客の方々も、アニメーションの中で描かれるであろう戦中の日々の食に興味津々。作品で描かれる時代を体感する出展になりました。

物語の世界観を呼び起こす

～時代を超えて届く“主人公・北條すずさんからの絵手紙”～

『この世界の片隅に』のアニメーション映画化にあたり、片渕監督は当時の膨大な資料を読み込まれ、現地調査や当時を知る方々への取材を丹念に重ねられてきました。作品には舞台となる戦前戦中の広島・呉の街や人々の生活がみずみずしく描かれています。

ファンもこうした物語の世界観のひとこまを楽しむことができます。主人公の北條すずさんからの絵手紙がそれです。これはクラウドファンディングで製作支援したメンバーに送られてくるリターン（お礼の品）のひとつで、物語の中で江波から呉に嫁いだ北條すずさんが、昭和19年から20年にかけて知り合いに送る絵手紙といった趣旨のもの。

「冬の記憶」（昭和8年12月 江波から中島本町へおつかいに行く話）向こうに見える岸は吉島側

宛先面には呉郵便局や呉辰川郵便局、呉中通三郵便局など、すずさんの立ち寄りそうな局の消印が押され、彼女の生活の息づかいが聴こえるよう。まさに時代を超えてすずさんから届く絵手紙です。この絵手紙、実は原作者こうの史代先生の描き下ろしで、『この世界の片隅に』番外新作とも言える大変貴重なものなのです。

被爆・戦後70周年の2015年が終わり、年は改まって2016年になりました。次にすずさんが出す絵手紙は、昭和20年の何月から送られて来るのでしょう？ 大事なもの身近なものを奪われてゆきながら、それでもなお、すずさんは毎日の営みを築き、描いて送ってくれると期待するのですが……。

アニメーション映画『この世界の片隅に』はもちろん片渕須直監督の作品ですが、あの時代に暮らしていた広島・呉のたくさんの人々の記憶を紡いで出来上がってゆくものです。無くなってしまったもの、今もあるものの昔の姿が丁寧に描かれます。アニメーションは架空の物語・存在を描くものと思われがちですが、アニメーション映像として、ふだん見ているはずの風景を見つめ直してみると、自分の中の記憶が動きだし、あらためて、住む土地へのいとおしさを感じられるのではないでしょうか。

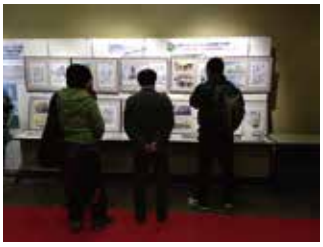
戦争、自然災害、開発などで、古くからあったもの大事なものが無くなってしまうのは広島・呉だけではなく、悲しみやいとおしさは共通です。他の土地でこの映画を観る人たちにも同じように感じてもらえると信じて、秋の劇場公開を待ち望みます。（文・松浦妙子）

【片渕須直監督コメント】

ダマー映画祭 in ヒロシマという名前だった頃から『この世界の片隅に』のワークショップを毎年開かせていただいています。その4年目、広島国際映画祭 2015 では、『この世界の片隅に』の主人公・すずさんが広島を出て呉にたどり着く姿を、映像としてお見せすることができました。さて、ここからがすずさんの呉における長い日々の始まりです。
われわれの方も長い準備期間を通り抜けて、いっそうペースを上げてがんばります。引き続き応援いただければ幸いです。
※コメントは 2015/11 広島国際映画祭後にいただいたものです。

映画祭会場ロビーで江波の女性（すずさんと同年齢）と歓談する片渕監督

片渕須直監督ワークショップ風景



広島フィルム・コミッションによる展示前でファンと歓談する片渕監督の後ろ姿（中央の人物）

支援者へ届いた北條すずさんからの絵手紙
宛名面には呉郵便局や呉辰川郵便局、呉中通三郵便局などの消印も。
「おかあ様の御話では『呉は廣島よりキモノ一枚分暖かい』さうです。しかし坂ばかりゆゑ、先日の雪の日のおつかいひは大へん往生しました。」（呉中通三郵便局消印の絵手紙から）

『この世界の片隅に』応援イベント（予定）

○ 5月1日(日)～5月5日(木・祝) 旧日銀広島支店
広島国際アニメーションフェスティバル100日前イベント『アニメーションで蘇る～この世界の片隅に～広島展』でパネル展示のほか同作品の時代背景等をテーマとした作品や資料の展示

○ 7月23日（土）～11月3日（木・祝） 呉市美術館
特別展 マンガとアニメで見る こうの史代「この世界の片隅に」

○ 春～夏頃 支援する呉・広島の会では、物語の舞台を探訪するツアー「このセカ探検隊」や、片渕須直監督作品の野外上映会などを企画中

▷公式サイト
http://www.konosekai.jp/
▷クラウドファンディング（募集は終了しています）
https://www.makuake.com/project/konosekai/
原作：こうの史代『この世界の片隅に』（双葉社刊 漫画アクション 連載）
監督：片渕須直
プロデューサー：丸山正雄（MAPPA）、真木太郎（GENCO）
画像 (c) こうの史代 / 双葉社・「この世界の片隅に」製作委員会

特集2 第 16 回 広島国際アニメーションフェスティバル 2016

2016 年 8 月 18 日（木）– 22 日（月）　会場 JMS アステールプラザ

国際名誉会長にジャン＝フランソワ ラギオニー氏
国際選考委員の5名も決定！

広島国際アニメーションフェスティバルは、国際アニメーションフィルム協会（ASIFA）公認のアニメーションの祭典として世界中のアニメーション作家やファンから注目されています。1985 年の第 1 回大会以来およそ 2 年に 1 度開催され、今年で第 1 6 回を数えます。

今年の 8 月 18 日（木）から 22 日（月）に開催される第 16 回広島国際アニメーションフェスティバルの国際名誉会長と国際選考委員が発表されました。国際名誉会長は『大西洋横断』、『グウェン』、『絵の中の小さな人々』など、珠玉の作品を生み出し続けているフランスのアニメーション作家、ジャン＝フランソワ ラギオニー氏です。大会期間中は特別プログラムに同氏の作品を上映する特集も予定されています。また、国際選考委員には、カレン ケリー氏（イギリス）、眞賀里 文子氏（日本）、ダーヴィッド ブオブ氏（ドイツ）、アーリック シュピリューク氏（ウクライナ）、オリヴィエ カテラン氏（フランス）の 5 名が選ばれました。いずれもアニメーション芸術の分野で活躍される著名な方々です。「愛と平和」を精神とする広島国際アニメーションフェスティバル。第 16 回大会も素晴らしい作品が数多く上映されることでしょう。

カレン ケリー

眞賀里 文子

ダーヴィッド ブオブ

アーリック シュピリューク

オリヴィエ カテラン

特別プログラム（予定）

- ジャン＝フランソワ ラギオニー短編作品特集（上映とトーク）
- ジャン＝フランソワ ラギオニー長編作品
- アジア・プレミア　ドキュメンタリー『Film Adventurer Karel Zeman』(2015)
- 日本のアニメーション大特集
- 広島大会受賞作品特集
- ベスト・オブ・ザ・ワールド
- 学生優秀作品特集
- 平和のためのアニメーション特集
- 子どものためのアニメーション特集

その他、たくさんの特別プログラムが予定されています。

Pick up!

広島メディア芸術振興プロジェクトの動向

広島からゲームクリエイターを生み出すイベント
「ぷち !! ひろしまゲームスタジアム」開催！

イベント会場の様子

2016 年 2 月 11 日、総合学園ヒューマンアカデミー広島校（広島市中区鉄砲町）でゲーム業界を目指す学生のイベントが開催されました。広島の学生であれば誰でも参加できるイベントで、学生達が作品を持ち寄り展示。また、県外のクリエイターによる特別セミナーも同時に開催されました。

同校ゲームカレッジ担任の坂本拓也先生は「このイベントは『オール広島』を合言葉に、互いに協力・競争しながら優秀な広島発のゲームクリエイターを育成することが目的です」と熱く語っておられます。イベントには広島だけでなく、東京や大阪、福岡、広島のゲーム会社 7 社が参加。同校だけでなく、広島の大学や他の専門学校からもゲーム業界に興味を持つ学生を中心に約 130 人が参加し、将来の広島のゲーム産業を盛り上げようとする若い熱気で会場が満たされました。

キネクトを使用した体感ゲーム

イベント情報

第 16 回広島国際アニメーションフェスティバル応援事業
～広島メディア芸術振興プロジェクト～

ひろしま映像ショーケース

広島には、表現のひとつとして「映像」を学び、取り組む人たちがたくさんいます。そして、素晴らしい作品を数多く創り出しています。「ひろしま映像ショーケース」では、そんな作り手たちの作品を、フィルムマラソン形式でお届けします。広島発の自主映像をお楽しみください。

また、「ルパン三世 VS 名探偵コナン THE MOVIE」など数々の作品を手がけているアニメーション監督の亀垣一氏によるトークショーや第 16 回広島国際アニメーションフェスティバルの関連展示も開催します。

2016 年 3 月 12 日（土）、13 日（日）　入場無料
広島市映像文化ライブラリー 2 階ホール（広島市中区基町 3-1）
12 日（土）　14：00 -　広島生まれのアニメーション
　　16：00 -17：20（予定）特別講演「アニメーション製作の現場から」
　　講師／亀垣一氏（アニメーション監督）
13 日（日）　13：00 -16：45（予定）広島生まれのドラマ

関連イベント「第 16 回広島国際アニメーションフェスティバル関連展示」
広島市映像文化ライブラリー 1 階多目的研修室（広島市中区基町 3-1）
2016 年 3 月 12 日（土）、13 日（日）　入場無料
12 日（土）10：00 -18：00
13 日（日）10：00 -17：00

北斎音頭（比治山大学短期大学部 美術科 2 年グループ制作）

Column　コンテンツと地域の遭遇を考える 西日本コンテンツ文化研究会

近年の商業アニメーション作品の中には、実在の地域を舞台にした作品があります。それらの作品の中は、地域の伝統行事や物語が題材に取り入れられていたり、景観や建物だけでなく、電車やバス、船といった公共交通機関に至るまでが非常に精密に再現されていたりしますので、作品のファンの中には実際に舞台となった地域を訪れて、作品世界を追体験して楽しむ方々も見られます。人気作品になると当地を訪れるファンの数も大変多く、新しい観光の 1 つになってきました。これまでは聖地巡礼や舞台探訪と呼ばれていましたが、近年はコンテンツ・ツーリズムと呼ばれることが多くなっています。

大崎下島のフィールドワークに向かう

広島でも『朝霧の巫女』（三次）や『かみちゅ！』（尾道）、『たまゆら』（竹原）、『君のいる町』（庄原）、『ももへの手紙』（大崎下島と周辺）などのアニメーション作品が知られていますし、最近では『艦隊これくしょん - 艦これ -』のアニメ版に呉が登場しています。これらの町を訪れるアニメファンも多く、様々なイベントなども行われ、町おこしにつながる動きも期待されています。

西日本コンテンツ文化研究会は、地域とアニメなどのコンテンツの結びつきについて研究する目的で結成された研究会で、広島や西日本各地の事例を中心に研究活動を行っています。また、この分野の全国の研究者で作る「地域コンテンツ研究会」とも連携しています。

これまで三次や竹原などをテーマにした研究活動のほか、コンテンツによる町おこしの実践としてローカル列車・三江線のコスプレイベント列車（卑弥呼蔵号）を 3 回にわたり運行してきました。これはコスプレ愛好者の方々にのどかで美しい景観を楽しみながら三江線というローカル列車の良さを知っていただこうという企画です。共同代表者の風呂本武典・広島商船高等専門学校准教授は「過疎地の観光振興や経済活性化について内発的発展の視覚から研究を続けてきましたが、昨今の地方を題材としたコンテンツ作品が観光資源としても注目されていますので、それが地域の自立的発展の結びつく可能性を研究しています」と語られます。自他共に認める「ヲタク」を自認される風呂本先生は、今年（2016 年）4 月 17 日（日）に 4 回目のコスプレイベント列車・卑弥呼蔵（ひみこぐら）号を運行されます。こちらもぜひご注目ください。（谷口重徳）

発行日：2016 年 3 月 10 日　発行部数：4000 部　発行：広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
編集：NPO 法人広島アニメーションシティ（HAC）　デザイン：広島国際学院大学 情報文化学部 岡川研究室
【紙面についてのお問合せ】NPO 法人広島アニメーションシティ事務局
〒739 - 0321　広島市安芸区中野 6 - 20 - 1　広島国際学院大学 情報文化学部 谷口研究室内
http://hac.or.jp　Email：hac-jimu@hac.or.jp　TEL：082 - 820 - 2710 ／ FAX：082 - 820 - 2723

メディア芸術に関する情報やご意見を募集しています